

【事業の分類】

関連するSDGsの目標



基本目標	重点課題プロジェクト		施策コード
	市民一人ひとりの防災力が高いまち“いとしま”プロジェクト		820
政策	その他の特色		コストの方向性
	市長公約	総合戦略	コスト増大
施策	事業種	継・新	公共施設等総合管理計画
	ソフト	継続	

【事業の内容】

事業名	地区防災計画作成事業（協働訓練分）（重プロ）				担当部課	総務部	危機管理課	
事業目的	行政区単位で地区防災計画を作成し、災害時の避難行動を理解する。				事業主体	糸島市		
					実施方法	全面委託		
事業内容	行政区単位で地区防災計画を作成し、行政区内の危険箇所及び避難場所を行政区で把握、検討することで、災害時の有効的な避難行動につなげる。地区防災計画作成に際し、作成手法のひとつとして、現在実施している九州大学とのリスクコミュニケーションを活用し、地域防災マップとタイムライン作成により、地区防災計画として完成させる。				進捗状況・現状	約3行政区/年に対し、地区防災計画の基となる災害リスクコミュニケーションを実施。令和4年度末で地域防災マップを28行政区、タイムラインを5行政区で作成予定。 地区防災計画作成数 R4(予定) 5行政区(潤南、岐志浜、西堂、潤北、大門)		
事業期間	令和3年度～令和7年度				会計種類	一般会計		
総事業費	14,422	千円	(うち市予算化分)	14,422	千円	款	項	目
前回の実施計画に計上した総事業費	14,422	千円	14,422	千円	予算科目	9	1	5

【担当課による評価】

◆活動指標

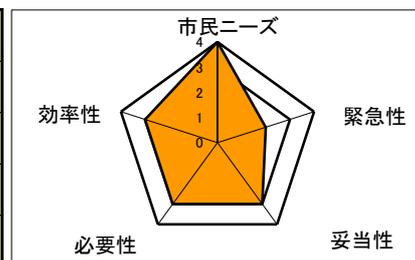
指標	現状値	当該年度目標値	最終目標値
地区防災計画策定数	0件	10件	25件

◆長期総合計画基本計画の施策に関する目標達成指標 ※本事業やその他関連事業の実施により達成される数値

指標	基準値 (R1)	当該年度目標値	目標値 (R7)
家族で災害時にどう行動するか、避難や連絡などのルールや方法を決めている市民の割合(市民満足度調査)	32.4%	42.0%	51.0%
防災マイスター登録者数	0人	9人	15人

◆事業の必要性など

事業の必要性	③必要な事業であり、ぜひ実施したい。
行政関与の妥当性	③内容的に行政が行うべき事業である。
事業の効率性(費用対効果)	③費用はかかるが、それ以上の効果が期待できる。
緊急性	②数年のうちに行わなければ、問題が起こる可能性がある。
市民ニーズ	④非常に高い



【事業費】

地区防災計画作成事業(協働訓練分)(重プロ)

※上段 ():市の予算を通らない事業費 【】:繰越費 斜体:ランニングコスト

(単位:千円)

		令和5年度	令和6年度	令和7年度	合計	
財源内訳	国庫支出金	625	1,250	1,250	3,125	
	県支出金					
	地方債					
	その他	1,875			1,875	
	一般財源 (a)		1,250	1,250	2,500	
事業費 (A)		2,500	2,500	2,500	7,500	
主な事業費内訳		地区防災計画作成	地区防災計画作成	地区防災計画作成		
従事職員数(人)		0.1	0.1	0.1	平均人件費	8,700
人件費 (B)		870	870	870	人件費割合 (%)	25.8
総コスト (A+B)		3,370	3,370	3,370	総コスト計	10,110

実質 地方 負担	交付税措置額				-	
	一般財源充当額 (b)					
	(a+b)					

財源の種類	特定財源の名称 (使途が定められた財源)	根拠法令等	補助率等 (地方債は交付税措置率)
国庫支出金	社会資本整備総合交付金	社会資本整備総合交付金交付要綱	50%
県支出金			
地方債		(充当率 %)	
その他	ふるさと応援基金繰入金	糸島市ふるさと応援寄附条例	

年 度	積算基礎	合計
令和5年度	地区防災計画作成 @500千円×5行政区=2,500千円	2,500 千円
令和6年度	地区防災計画作成 @500千円×5行政区=2,500千円	2,500 千円
令和7年度	地区防災計画作成 @500千円×5行政区=2,500千円	2,500 千円

担当部長による 総合評価	市民自らが防災・減災の行動力を高め、地域防災力を高めるための重要な取組である。
-----------------	---

【事業の分類】

関連するSDGsの目標



基本目標	重点課題プロジェクト		施策コード
	“糸島サイエンス・ヴィレッジ”実現化プロジェクト		840
政策	その他の特色		コストの方向性
	市長公約	総合戦略	コスト維持
施策	事業種	継・新	公共施設等総合管理計画
	ソフト	継続	

【事業の内容】

事業名	糸島サイエンス・ヴィレッジ実現化事業（重プロ）			担当部課	経済振興部	学研都市づくり課	
事業目的	さまざまな分野の企業・研究者や学校などが集積し、イノベーションや新産業が生まれ、地域と大学の学生・教職員などが活発に交流する真の学術研究都市の構築。			事業主体	(一社) SVI推進協議会、市		
				実施方法	その他		
事業内容	○設立した一般社団法人の中で、大学の知的資源などを実用化し、新産業の創出や社会課題などの解決につながる検討を行う。 ○都市計画法による地区計画などを進め、大学に関連した研究所や企業、学校などの誘致を進めるとともに、起業支援制度などにより大学発ベンチャー企業の育成を図り、サイエンス・ヴィレッジの整備を進める。 ○一社で取り組む実証事業・研究拠点として、旧清掃センターを管理する。 ○旧清掃センターを改修し、(一社)SVI推進協議会の事務所やシェアオフィス、コワーキングスペースなど、また、九州大学の学生や研究者が利用できるラボや交流スペース、研究所等として使用する。			進捗状況・現状	R3.10 一般社団法人SVI推進協議会設立。 法人内で協議した内容・方向性を庁内関係部署と共有を図り、誘致方法の整理・調整を進めている。 R4.4 ローカル5Gの基地局設置 R5.9 SVIまちづくり構想(素案)作成		
事業期間	令和3年度～令和7年度			会計種類	一般会計		
総事業費	35,629	千円	(うち市予算化分) 35,629 千円	予算科目	款	項	目
前回の実施計画に計上した総事業費	35,536	千円	35,536 千円		2	1	7

【担当課による評価】

◆活動指標

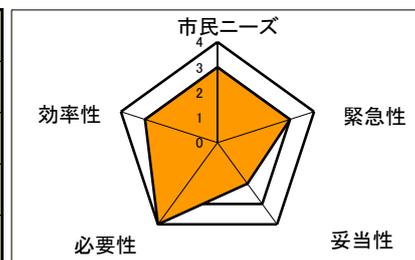
指標	現状値	当該年度目標値	最終目標値
サイエンス・ヴィレッジへの参入企業・研究所等数	0社	0社	2社

◆長期総合計画基本計画の施策に関する目標達成指標 ※本事業やその他関連事業の実施により達成される数値

指標	基準値 (R1)	当該年度目標値	目標値 (R7)
サイエンス・ヴィレッジへの参入企業・研究所等数	0社	1社	2社

◆事業の必要性など

事業の必要性	④非常に高い。必ず行うべきである。
行政関与の妥当性	②民間でも可能だが、行政が行う方が効率的である。
事業の効率性(費用対効果)	③費用はかかるが、それ以上の効果が期待できる。
緊急性	③今行わなければ、近い将来必ず市民生活に支障が出る。
市民ニーズ	③やや高い



【事業費】

糸島サイエンス・ヴィレッジ実現化事業(重プロ)

※上段 ():市の予算を通らない事業費 【】:繰越費 斜体:ランニングコスト

(単位:千円)

		令和5年度	令和6年度	令和7年度	合計	
財源内訳	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					
	その他	19,173	14,000		33,173	
	一般財源 (a)		861	861	1,722	
事業費 (A)		19,173	14,861	861	34,895	
主な事業費内訳		負担金、旅費、光熱水費、消耗品費	負担金、旅費、光熱水費、消耗品費	負担金、旅費、光熱水費、消耗品費		
従事職員数(人)		1	1	1	平均人件費	8,700
人件費 (B)		8,700	8,700	8,700	人件費割合 (%)	42.8
総コスト (A+B)		27,873	23,561	9,561	総コスト計	60,995
実質地方負担	交付税措置額				-	
	一般財源充当額 (b)					
	(a+b)					
財源の種類	特定財源の名称 (使途が定められた財源)	根拠法令等			補助率等 (地方債は交付税措置率)	
国庫支出金						
県支出金						
地方債		(充当率 %)				
その他	企業版ふるさと納税基金繰入金 ふるさと応援基金繰入金	糸島市企業版ふるさと納税基金条例 糸島市ふるさと応援寄附条例				

年 度	積算基礎	合計
令和5年度	負担金:SVI推進協議会会費100千円、SVI推進協議会事業負担金18,000千円 旧清掃センター管理:電気代513千円、建物保険料4千円、浄化槽保守316千円 旅費:70千円×1人×3回=210千円 消耗品費:30千円	19,173 千円
令和6年度	負担金:SVI推進協議会会費100千円、SVI推進協議会事業負担金14,000千円 旧清掃センター管理:電気代420千円、建物保険料4千円、浄化槽保守97千円 旅費:70千円×1人×3回=210千円 消耗品費:30千円	14,861 千円
令和7年度	負担金:SVI推進協議会会費100千円 旧清掃センター管理:電気代420千円、建物保険料4千円、浄化槽保守97千円 旅費:70千円×1人×3回=210千円 消耗品費:30千円	861 千円

担当部長による 総合評価	<p>糸島サイエンス・ヴィレッジ(SVI)は、九州大学学術研究都市推進協議会(本市、九州大学、福岡県、福岡市、九経連等)で策定した九州大学学術研究都市構想に基づく、周辺環境と調和した小規模な開発:分散型地域核”ほたる”の一つであり、その実現は、九州大学の知的資源等を活用した本市の学術研究都市づくりに資するものだと考える。</p> <p>SVIの推進役として産学官で構成する一般社団法人SVI推進協議会の中で議論しながら、行政だけではできない新しいまちづくりを進めることが重要である。</p>
-----------------	--